



尾道市立市民病院広報誌

第26号

発行日：平成26年1月

〒722-8503

尾道市新高山3丁目1170-177

TEL：0848-47-1155

FAX：0848-47-1004

http://www.onomichi-hospital.jp/

院内広報

第26号

尾道市立市民病院理念

尾道市立市民病院は、信頼される安全で質の高い医療を提供し、市民の皆さまの健康を守ります。



新年のごあいさつ

病院長 宮田 明

皆様、明けましておめでとうございます。平素より当院の運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

わが国は未曾有の少子高齢化社会に突入しつつあります。日本が優れた健康水準を低コストで公平に実現させてきたのは充実した社会保障制度のおかげであったともいえます。この社会保障制度を将来の世代につなげるためには制度改革が必要だということになり、社会保障の専門家が、将来どうあるべきかを論理的・実証的に論議した結果、「社会保障制度改革国民会議報告書」が昨年8月6日に公表され、これからの医療・介護の改革の道筋が示されました。今年はこの報告書に沿った各種の施策の実行に向けた大きな節目の年となります。膨大な内容ですが、基本的な考え方が「いつでも好きなところで、お金の心配をせず、に求める医療を受ける」から、「必要な時に適切な医療を適切な場所で最少の費用で受ける」となり、「病院で治す(キュア)」医療から、「地域全体で治し・支える(ケア)」医療へと変わりました。

都道府県が地域医療計画を作成し、市町村が地域にあった在宅医療・介護・生活支援を含めた地域包括ケア計画を作成して医療機能の分化と連携を進めてゆくということになります。

そのために病床機能を都道府県に報告し都道府県がその地域にふさわしい地域ビジョンを策定することになります。これからは自分たちの病院だけで完結することを考えるのではなく、行政や住民の方々と共にそれぞれの地域の視点で医療、介護のあるべき姿を真剣に模索し、協力し合うなかで病院がどうあるべきかを決めて行く時代になったと思われれます。

ところで昨年は小児科が一時休診になるなど、皆様には大変ご心配とご迷惑をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。すでに報道等にてお聞き及びと存じますが、尾道の救急医療に大きな動きがありました。救急医療は当院の診療のひとつの柱でもあり、併設されている市立夜間救急診療所とともにこの地域の救急医療を支えてきました。しかし一次救急(夜間救急診療所)と二次救急を同時に、夜を徹

して対応しなければならないという、当直医にとって過酷な勤務状況が存在しており、これが常勤医の大きな負担となっておりました。平成16年に開始された新臨床研修制度に起因する全国的な医師不足の影響で、当院でも内科医を中心に大学への医師引き揚げが続いたため救急医療の維持が困難となり、平成20年より医師会の先生方のご支援を頂き今まで何とかやってきました。その間、医師確保のため大学への働きかけを始めあらゆる手を尽くしてまいりましたが、そういう状況にある当院での勤務を希望する医師は少なく、その影響で臨床研修医も少なくなり、抜本的な改善策を取らねばならない状況に追い込まれておりました。

昨年9月、夜間救急診療所が本年4月1日開所を目標にして総合福祉センターの敷地に移転することが決定いたしました。そして診療時間も1月1日より短縮して20時から23時までとなります。一次救急医療機関である夜間救急診療所を分離することにより当院は二次救急に特化することが出来るようになり、それが常勤医師の負担軽減につながり将来の医師確保につながることが期待できます。実情をご理解いただき施策を推進いただいた市長、副市長を始めとした行政の皆様、医師会の先生方には心より感謝申し上げます。

新しい夜間救急診療所は外科・内科の診療を致しますが診察医はオール尾道の体制で当院の医師と、尾道市医師会、松永沼隈地区医師会、因島医師会、JA尾道総合病院の先生方が出務する予定です。ご支援ご協力いただいた医師会の先生方には心より感謝申し上げます。また小児科救急を一手にお引き受けくださるJA尾道総合病院小児科の先生方にも感謝申し上げます。体制が変わっても職員一同心機一転し、さらに熱意を持って診療に当たってまいります。市民の皆様にはどうかご理解賜りますようお願い申し上げます。

本年も引き続き安全で質の高い医療を効率的に提供し、地域の皆様方から信頼される病院、地域に無くてはならない病院であることが出来るよう、職員一同邁進してまいりますので、変わらぬご厚誼と、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

夜間救急診療所が変わります

市民病院に併設されている尾道市立夜間救急診療所が大きく変わろうとしています。

まず、平成26年の1月1日から、診療時間が短縮されます。これまでは午後8時から翌朝7時までの11時間でしたが、午後8時から午後11時までの3時間となります。

また、平成26年4月からは、建物が市民病院とは別の場所となり、門田町の総合福祉センター敷地内へ移転される計画です。

なぜ、こうした変更が必要となったのでしょうか。

市民病院では、二次救急医療機関として夜間や休日などに当直医師を配置し、24時間体制で救急対応にあたっています。夜間救急診療所と市民病院とは別の医療機関になりますが、救急施設を併用しているため、夜間救急診療所の診療は主として、市民病院の当直医師が兼務で業務をこなしています。

夜間救急診療所の運営は、これまでも、平成20年5月から尾道市医師会や松永・沼隈地区医師会、因島医師会の診療応援により、何とか継続してきました。夜間救急診療所の危機は、その診療を市民病院の医師が多く受け持っているため、市民病院の危機にもつながってきます。それが、市民病院だけにとどまらず、尾道地域の救急医療体制に影響することになります。

そこで、救急医療体制を守り続けていくため、尾道地域の基幹病院の救急医療実務者や各医師会の代表者、行政の担当で構成される「尾道地区救急医療検討委員会」が平成23年11月から本格的に組織され、今後の救急医療体制について議論が進められてきました。

そのなかで、夜間救急診療所は市民病院の付属施設ではないことを明確にする必要があること、翌朝までの診療時間についての変更もやむを得ないことなどが話し合われました。このような経過を経て、診療時間や建物の場所が変更されることとなったものです。

今後も引き続き、質の高い医療を提供するよう心がけていきますので、みなさんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



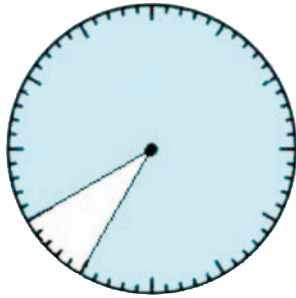
お知らせします

尾道市立夜間救急診療所

《診療時間の変更》

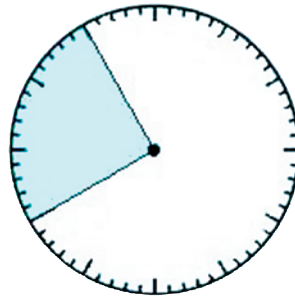
現在の診療時間

午後8時～翌日午前7時



平成26年1月1日
からの診療時間

午後8時～午後11時

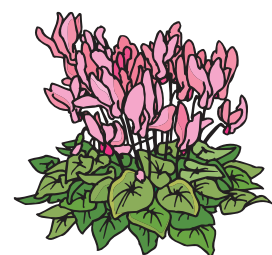


※平成26年4月からは、尾道市立夜間救急診療所を尾道市総合福祉センター(門田町22-5)敷地内に移転する予定です。



重症の患者さんについては、引き続き24時間体制で二次救急医療機関(※)が対応します。

※入院・手術が必要な重症患者に対応する医療機関



夜間救急診療所が変わります

15th World Conference on Lung Cancer での発表を終えて

外科 後期研修医 吉岡 貴裕 医師

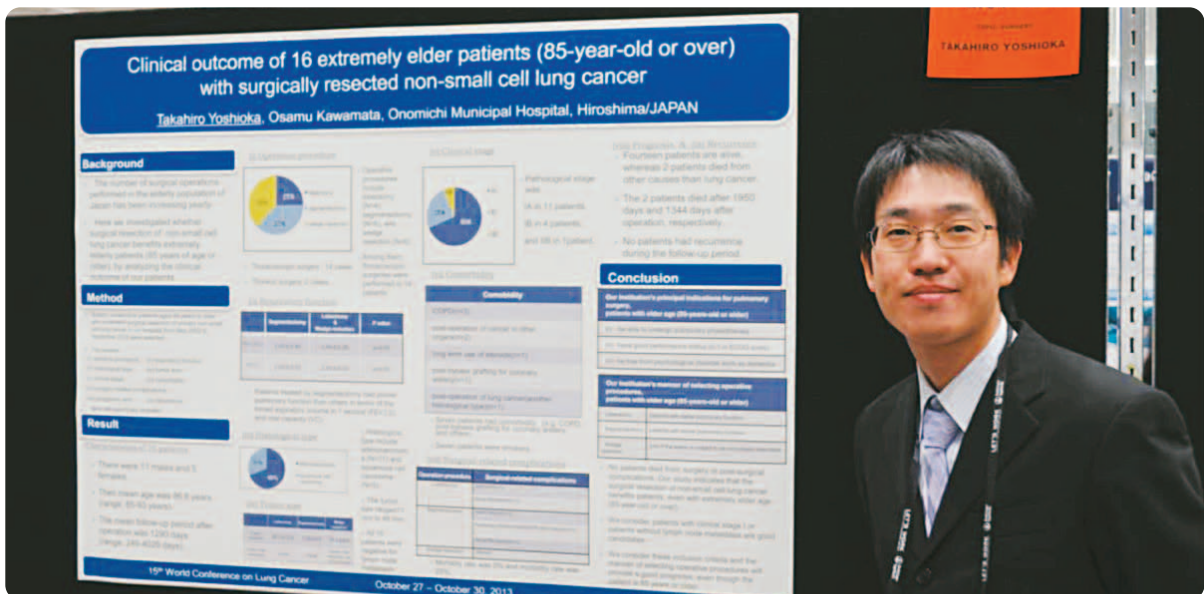
尾道市立市民病院外科の吉岡貴裕です。この度、本年10月27日より30日まで、シドニーで開催された世界肺癌学会へ参加し発表を行って参りましたので、その際の感想をここに報告させていただきます。私にとっては国際学会への参加自体が初めての事でしたので、準備の段階から慣れない事ばかりでありました。発表はとて自分一人で実現できた事ではなく、特に川真田先生・岩室先生にご指導いただいて実現したことであり、この場を借りて再度お礼を申し上げたく存じます。盛りだくさんの学会参加を終えて振りかえり色々な感想がありますが、ここでは「英語での発表」という点に関して感じたことを述べさせていただきます。

英語での発表には英語ならではの特征があり、日本語と比較して曖昧な表現を好みません。手元のデータと結論との因果関係をより明確にする事が要求され、断定すべきは断定し、不明なことは不明であると明言する必要があります。日本語で下書きした抄録を英語に訳す慣れない作業を行いつつ、日本語で自分の書いた文章が無意識に様々な表現を曖昧

なままにしていた事を思い知りました。

ただしその一方で、本質的には手術適応の慎重な検討・手術手技の研鑽など、日常業務の質を保ち続ける事、緻密なデータの集積を行い解析する事、論理的な思考を組み立て結論へ導く事など、言語が変われども重要視される部分はなんら変わらない点も同時に実感しました。国や地域、施設により患者背景や疾患頻度が異なれども、きちんとした仕事を行い続けられれば、検討・評価に値する発表を行うことができると感じる事ができたのは、学会へ参加しての収穫です。尾道からでも、施設として、職員一同が日頃から常に診療の質向上を意識し続けることで、国際学会へ出しても恥ずかしくない診療成果を挙げる事ができるはずで

す。以上をもって、簡単ではありますがご報告とさせていただきます。一度の学会参加で大きなことは言えないかもしれませんが、私にとっては有意義で充実したものでありました。今回の経験が今後の日常診療に活かされるよう、精進してまいります。



治験を開始しました

「くすりの候補」が「くすり」となるためには、人において効き目(有効性)や副作用(安全性)を調べる必要があります。人での有効性や安全性について、調べることを「臨床試験」と言いますが、「くすりの候補」を国(厚生労働省)から「くすり」と認めてもらうために行う「臨床試験」のことを、特に「治験」と呼んでいます。

「新しいくすり」の開発のなかで最も重要な過程は有効性と安全性を確認することです。しかし研究者・医師・製薬会社の力だけでは達成することはできません。患者さんのご理解とご協力を頂き、多くの医療の現場で調べる必要があります。

「治験」は全国の医療機関で実施されており、このたび尾道市立市民病院で治験を実施することとなりました。患者さんに治験の目的・方法・特徴(予測される効果と副作用)など十分な説明をさせて頂き、患者さんが納得された後、自主的にご協力いただくようにしています。「治験」に参加して頂ける患者さんに対しては診察・検査等を通常より詳細に行うことで安全性に十分注意を払います。また、交通費に活用できる費用負担軽減費も支払われるというメ

リットもあります。

治験コーディネーター(CRC)と呼ばれるスタッフが、協力者の方にご来院時には付き添い、効率よく受診から会計までが流れるようになっています。当院では、病気に苦しむ患者さんの一助となるべく治験に協力しております。

肩・肘・腱やその周囲に痛みがある方 治験にご協力ください

＜治験にご参加いただける方＞

- ◆20歳以上の方
- ◆定期的に通院いただける方
- ◆下記症状を感じる方

・腱・腱鞘炎
(関節とその周囲の痛みや動きを制限される症状)



※上記条件を満たす方でも他の参加条件に合わないなどの理由により、ご参加いただけない場合があります。

あらかじめご了承ください。

※治験にご参加いただく方の個人情報は厳守いたします。

＜お問い合わせ先＞

施設名:尾道市立市民病院
治験責任医師:廣岡 孝彦
連絡先:治験事務局 向井 弘恵 岡田 昌浩
0848-47-1155(代表)



昔、タバコを吸われていた方 今も吸われている方

COPD(慢性閉塞性肺疾患)の治験にご協力ください。

このような症状でお困りではありませんか?
これらはCOPDの代表的な症状です。

- ★ 風邪でもないのに、せき・たんがでる
- ★ 階段や坂道で息切れがする



当院では、現在、COPDの治験をおこなっています。
詳しく知りたい方、参加を希望される方は、
担当医または下記連絡先までお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先:治験事務局 向井 弘恵 岡田 昌浩
電話番号:0848-47-1155(代表)

腰痛症の方、 治験にご協力ください

当院では、腰痛症の患者さんを対象とした
治験に参加いただける方を募集しています。

＜治験にご参加いただける方＞

- ◆20歳以上の方
- ◆2週間以上腰痛が続いている方
- ◆定期的に通院いただける方

※上記条件を満たす方でも他の参加条件に
合わないなどの理由により、ご参加いただけない
場合があります。あらかじめご了承ください。
※治験にご参加いただく方の個人情報は
厳守いたします。



＜お問い合わせ先＞

施設名:尾道市立市民病院
治験責任医師:廣岡 孝彦
連絡先:治験事務局 向井 弘恵 岡田 昌浩
0848-47-1155(代表)

参加募集中の治験について

現在、下記の治験について参加を募集しております。

参加ご希望の方は治験事務局までご連絡下さい。治験に参加するには参加条件があり、ご希望されても基準に合わない場合は参加頂けないことがありますのでご了承下さい。



現在、参加募集中の治験!

- COPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者さん対象の治験
- 腰痛症の患者さん対象の治験
- 腱・腱鞘炎に痛みがある患者さん対象の治験

※当院では、健康な方のボランティア対象の治験は行っておりません。参加ご希望の方は治験事務局までご連絡下さい。

尾道市立市民病院 治験事務局 薬剤部：向井弘恵・岡田昌浩
 TEL：0848-47-1155（代表） FAX：0848-47-1004
 受付時間：平日9時～17時



新任医師の紹介・ごあいさつ



皮膚科
檉野 かおり 医師

平成25年10月に尾道市立市民病院皮膚科に赴任いたしました。尾道市出身で、岡山大学を卒業後、岡山県では岡山済生会病院などの病院や、香川県の三豊総合病院、広島市民病院の皮膚科に勤務してきました。おもに総合病院の皮膚科に勤務していたので、さまざまな病気に関連した皮膚の様子を多く経験させていただきました。

とりたててスポーツはしていませんが、あちこち歩くのが好きで時間があれば1時間でも歩いています。また電車やバスなど乗り物に乗るのが好きです。そのせいか車の運転は苦手です。

生まれ故郷である尾道に20年ぶりに帰ってきて、あらためて景色がきれいなところだなと思いました。これまでに居たところでもあちこ

ちで尾道の風景画を見かけましたが、描きたくなる気持ちも納得できます。そしてお年を召した方も大変お元気で自立している方が多いことにも驚き、うらやましく思います。気候がよく住みやすい街のためでしょうか。

また、患者さんの住所を見ると島など遠くから来ておられ、地域医療の一端を担っていることを実感しています。当院や開業医の先生方と協力し、貢献できればと考えています。

湿疹やじんましんなどの皮膚炎から、皮膚腫瘍、床ずれなど皮膚科一般を診療しており、皆様のお役に立つことができればと考えています。どうぞよろしくご願ひ致します。



第1回内科レジデントカンファレンスin Okayama

初期研修医 宮島 祐一 医師

私は、平成25年11月9日にママカリフォーラムで開催された第1回内科レジデントカンファレンスin Okayamaに参加させていただきました。この会は岡山大学第二内科主催で、各関連病院の初期・後期研修医が学会形式に発表を行いました。私は当院呼吸器内科の村上先生による指導の下、「当院における日本紅斑熱の臨床的検討」について発表しました。

ここで日本紅斑熱について少しだけ説明させていただきます。日本紅斑熱はマダニを媒介として感染するリケッチア感染症です。リケッチア感染症として有名なのはツツガムシ病ですが、日本紅斑熱はRickettsia japonicaを起炎菌とする特殊な感染症です。リケッチアは通常の細菌と異なり、ヒトの細胞内でしか増殖できない細菌で、通常の抗生剤では効果を認めません。そのため、テトラサイクリンという蛋白質合成を阻害する抗生剤での治療が必要です。したがって、リケッチア感染を疑って治療を行わなければ、治療に難渋する感染症です。典型的な症状は発熱と皮疹で、血液検査では血小板減少や肝機能障害を伴います。最も診断的根拠となるのは、マダニの刺し口で、全身くまなく検索

する必要があります。なかには重症化し、死に至ることもあるとされています。尾道の山林ではRickettsia japonicaを保有するマダニが多く存在し、日本紅斑熱の好発地帯とされています。そのため、当院に来院される患者さんも多く臨床的検討を行いました。

当日は、他の先生方の素晴らしい発表に圧倒され、大変緊張いたしました。途中で舌が回らないこともありましたが、何とか無事に発表を終えました。珍しい疾患であるため、場内から多数の質問を受けましたが、指導医の先生方から教わったことや自分で勉強したことをもとに、難なく答えることができました。最後の表彰式では、全19題の中から「Best presentation賞」という最優秀賞を受賞しました。

今回は、指導医である村上先生に連日夜遅くまで根気強くご指導いただき、大変感謝しております。また、前日の昼に仕事でお忙しいなか、予行をしてくださった当院皮膚科の上田先生、樫野先生、スタッフの方々にも重ねてお礼申し上げます。

今後もより良い医師になれるよう精進いたしますので、宜しくお願い申し上げます。



看護部紹介シリーズ ①

外来部門(第Ⅰ・第Ⅱ外来・消化器センター)の取り組みをご紹介します！

第Ⅰ外来

私達、第Ⅰ外来は、内科・消化器内科・呼吸器内科・循環器内科・神経内科・小児科形成外科・泌尿器科・歯科口腔外科・耳鼻咽喉科を担当しています！

第Ⅰ外来では、外来医療・看護が変化してきているなか、私達は皆様に効果的な支援が提供できるよう一般的な外来看護の充足に加え、専門的な「看護外来」を目指し取り組んでいます。

心不全・糖尿病・リウマチ・腎不全など慢性疾患の生活支援は、慢性心不全認定看護師・糖尿病看護認定看護師・糖尿病療養指導士・リウマチケア看護師・慢性腎臓病外来担当看護師が対応しています。

血管診療センターの活動内容としては、循環器内科・脳外科・内科・血管外科の医師と薬剤師・

栄養士・検査技師といった多職種と協働して、生活習慣に関連して起こる動脈硬化疾患の「早期発見」「治療」「日常生活指導」「服薬指導」栄養指導」に力をいれています。

- 慢性腎不全疾患患者に対しては、腎臓病教室を開催し慢性腎臓病外来担当看護師が中心となって指導しています。
- 毎月第4水曜日⇒「腎臓の働き」日常生活の注意点」「お食事について」「お薬について」

(★偶数月：慢性腎臓病) (★奇数月：糖尿病性腎症)

糖尿病看護相談外来のご案内

「糖尿病に関するよろず相談」始めました。

糖尿病だったらどうしよう。
検診で糖尿病だと言われたけど
どうしたらいいんだろう。
ご本人、ご家族の方なた
でもどうぞ。

平成25年9月から糖尿病看護外来を始めました！

第2・第4金曜日・午後予約制で
しています。

連絡先：内科外来

代表(0848)47-1155

糖尿病看護認定看護師

古賀 純子 まで

ご相談してください。



第Ⅱ外来

私達、第Ⅱ外来は、外科・血管外科・整形外科・脳外神経科・眼科・皮膚科の外科系診療科と、中央点滴室・消化器内視鏡センターを担当しています！

第Ⅱ外来では、手術を受けられる患者さんが、安心して入院治療を受けられるように、サポートしています。また外来から在宅生活への復帰を目指した支援に力を入れています。

活動内容は、入院前外来の段階で、退院後の療

- 養の不安があると予測される方には、地域医療連携室や病棟へ情報提供するなど病棟と在宅を結ぶ架け橋として、退院後の生活を見据えた関わりを目指しています。患者さんが安心して在宅療養へ移行できるように退院前には病棟訪問を行い、自宅での生活についてのお話をしています。

外来受診時には、積極的に声をかけて、自宅で

- 困ること、支援が必要なこと等の問題点を把握し不安の軽減など精神的援助に努めています。現在は疾患を限定して取り組んでいます。

第Ⅱ外来には、皮膚排泄ケア認定看護師が、入院中だけでなく退院後在宅での生活支援体制の確立に取り組んでいます。

看護専門のストーマ外来は、第2・第4月曜日の午後予約制で患者さんのセルフケアを支援しています。院外の施設、ケアマネージャーなどからの相談依頼や指導、訪問看護師との在宅訪問など幅広く活動をしています。

- 入院・手術を受けられる方への説明などを一ヶ所に集約するシステムとして「入院支援センター」設立を準備しています。



消化器内視鏡センター

消化器内視鏡センターは、平成19年9月に開設されました。落ち着いた雰囲気の中で検査ができる環境を整備しています。

- 内視鏡検査は、苦痛を伴う検査が多いので、少しでも苦痛を緩和できるように体位を工夫したりリラックスできるように声掛けをしています。安全・安楽・安心を常に心がけています。センター内で週に1回のカンファレンスで情報共有をしながら医師との連携を図っています。看護師は消化器内視鏡技師免許取得者が5名おり専門性の高い看護を提供しています。主な検査は、上部消化管内視鏡（食道・胃・十二指腸）や下部消化管内視鏡（大腸）・腹部超音波・エコー下生検・ラジオ波等です。
- 内視鏡検査を行うことで、がんの早期発見・治療につながります。1年に1回の健康診断をお勧めします。検査のことでご不明な点やご心配なことがあり

ましたら、内視鏡センター看護師にお気軽にご相談下さい。



消化器センター
スタッフです。



第26回文化祭を開催しました

11月18日(月)・19日(火)に第26回文化祭を開催しました。昨年度は第1回病院祭との兼ね合いで未開催としたため、2年ぶりの開催となりました。

文化祭は職員のクラブ活動の成果の披露や、患者さんや地域の方々との交流の場であります。患者さん・地域の方々からも展示作品を募り、80名を超える方が出展され様々な作品が展示されました。また、職員によるお茶会やアロマテラピーも実施し、非常に多くの方々にご観覧頂くことができました。

今回は、多数のご応募・ご来場ありがとうございました。次回の開催時も是非ご参加下さいますようお願いいたします。



科別診療割表

診療受付時間 午前8時30分から午前11時まで
 休診日 土曜日・日曜日・祝日・12月29日から翌年1月3日

地域医療連携室 0848-4711170
 電話番号 0848-471155(代)

案内図

区分	科別	月	火	水	木	金	備考	
午前	内科	1診	山脇 泰秀 内科全般	山脇 泰秀 内科全般	金尾 浩一郎 内科全般	山脇 泰秀 内科全般	宮田 明 内科全般	
		2診		水戸川 剛秀 内科全般	開原 正展 腎・高血圧	水戸川 剛秀 内科全般	桶作 崇智 内科全般	
		3診	城戸 雄一 内科全般・糖尿病	開原 正展 腎・高血圧	松下 裕一 内科全般・糖尿病	金尾 浩一郎 内科全般	松下 裕一 内科全般・糖尿病	
		4診				城戸 雄一 内科全般・糖尿病		
		5診	藤野 寿幸 内分泌・代謝				山脇 泰秀 パーキンソン病	
	総合診療科	1診	荒田 夕佳	宮田 明 橋本 洋夫 リウマチ・膠原病	桶作 崇智	岩室 雅也	垣尾 勇樹	※1 内科4診で診療 ※2 内科5診で診療
		2診	甲斐 華恵※1		巻幡 清 住谷 順子 内科全般・内分泌	甲斐 華恵※2		
		3診						
	呼吸器内科	1診	村上 斗司	村上 斗司	検査	村上 斗司	村上 斗司	火曜日 午後診療あり
	消化器内科	1診	岩室 雅也	平岡 佐規子	河合 良成	河合 良成	宮部 欽生	※3 内科5診で診療
		2診		宮部 欽生※3				
	循環器内科	1診	岩崎 淳	圓光 賢希	高村 俊行	高村 俊行	小林 博夫	
		2診	小林 博夫					
	神経内科	診察		岡本 美由紀			逸見 祥司	予約制
	外科	1診	中井 肇 肝、胆、脾、消化器	宇田 征史 消化器・鏡視下	宇田 征史 外科全般	中井 肇 肝、胆、脾、消化器	村田 年弘 外科全般	
		2診	松本 朝子 外科全般	上塚 大一 消化器・ヘルニア	上塚 大一 肛門科	川真田 修 呼吸器	川真田 修 乳腺、食道	
		血管外科		越智 吉樹		越智 吉樹		
	整形外科	1診	廣岡孝彦(予約)	藤井 淳一 迫間 巧将	廣岡孝彦(予約)	藤井 淳一 高田 直樹	廣岡孝彦(予約)	
		2診		岡田 卓巳	迫間 巧将 高田 直樹	田中 千晴	迫間 巧将 岡田/藤井※4	※4 岡田(第1・3金曜日) 藤井(第2・4金曜日)
		3診	藤井 淳一				装 具	
4診		田中 千晴						
5診			装 具					
形成外科	1診	高田 温行	高田 温行	高田 温行	高田 温行	高田 温行		
小児科	1診	井上 直樹	井上 直樹	井上 直樹※5	井上 直樹	井上 直樹	※5 第3水曜日休診	
脳神経外科	1診	土本 正治	大同 茂	岩戸 英仁	土本 正治	大同 茂 岩戸 英仁		
	2診					岩戸 英仁		
産婦人科	新患再来 妊婦健診	大村 裕一	春間 朋子 大村 裕一※6	大村 裕一	大村 裕一	大村 裕一	※6 9:30より	
皮膚科	1診	上田 武滋 櫻野 かおり	上田 武滋 櫻野 かおり	上田 武滋 櫻野 かおり	上田 武滋 櫻野 かおり	上田 武滋 櫻野 かおり		
	2診							
泌尿器科	1診	大枝 忠史	堀川 雄平	大枝 忠史	別宮 謙介	大枝 忠史		
	2診	別宮 謙介	大枝 忠史	堀川/別宮	大枝 忠史	堀川 雄平		
耳鼻いんこう科	診療あり	診療あり	診療あり	診療あり	診療あり	診療あり	広島大学病院から	
眼 科	診察	諫見 久恵	諫見 久恵	諫見 久恵	手術	諫見 久恵		
	放射線科	画像診断	三船 啓文 正岡 佳久	三船 啓文 正岡 佳久	三船 啓文 正岡 佳久	三船 啓文 正岡 佳久	三船 啓文 正岡 佳久	
		治療		勝井邦彰(予約)				
歯科・歯科口腔外科		吉田 明弘	吉田 明弘	手術	吉田 明弘	吉田 明弘		
午後	内 科	検診 禁煙外来(上田)	検診	検診 フットケア外来※7	検診	検診	※7 第2・4水曜日	
	呼吸器内科		診察(巻幡 清)					
	消化器内科	検査	検査	検査	肝臓専門外来 (中井/河合良成)	検査		
	循環器内科		ペースメーカー外来				第1・第2火曜日14:00より	
	循環器内科検査	心カテ	検査・診療	心カテ	経食工コー	心カテ	13:00~17:00	
	神経内科		検査・診療		認知症外来(松山)			
	血管診療センター		検査		検査			
	外科	手術 ストーマ外来(澤井)	手術	手術	手術	手術	手術	第2・第4月曜日
		乳腺外来 (松岡/本後)※8						※8 松岡(第2・4月曜日) 本後(第1・3・5月曜日)
	整形外科	手術	手術	手術	手術	手術		
	形成外科	手術	手術	手術	手術	手術		
	小児科	検査	乳児検診 栄養指導	小児科専門外来 (森島)※9	小児科専門外来 (森島)※9	神経外来(林)※10 予防接種	循環器外来(脳)※11	※9 第2・4(13:00~16:30) ※10 第1木曜日 ※11 第4金曜日(偶数日)
		検査	頭痛外来(土本)	手術	脳ドック外来(土本)	手術	検査	14:00より
	産婦人科		母乳外来 1ヶ月検診	母乳学級 (第2・3・4週)	母乳外来 1週間検診	手術	1週間検診	
	皮膚科	検査	手術	手術	手術	手術	検査	
泌尿器科	手術	手術	手術	手術	手術	検査・予約外来		
耳鼻いんこう科		睡眠時無呼吸外来(佐々木)	黄斑外来(諫見)※12	検査	検査	検査	※12 14:30より予約制	
眼 科	検査						予約制	
放射線科	画像診断	画像診断 血管造影	画像診断 血管造影	画像診断 血管造影	画像診断 血管造影	画像診断 治療(勝井)	予約制	
歯科・歯科口腔外科	口腔外科	口腔外科	口腔外科	口腔外科	口腔外科	手術	予約制	
専門外来	禁煙外来 ストーマ外来 (第2・4週)	ペースメーカー外来 (第1・2週)	脳ドック外来 フットケア外来 (第2・4週)	肝臓専門外来 認知症外来 小児神経外来 (第1週)	小児循環器外来 (偶数月/第4週)		予約制	
	乳腺外来	黄斑外来	黄斑外来					
	頭痛外来							

